

## SGH意識調査〔アンケート項目と集計結果〕

三小田 博 昭

### 1 生徒の意識を測るアンケート項目

A：本質理解 を測るためのアンケート項目  
 自然や社会の現象がなぜ起きるのかを考えようとしている  
 ある事柄と別の事柄の共通点を探している  
 問題の原因を様々な角度から考えるようにしている  
 なぜそのようになるのかをいつも考えるようにしている  
 様々な事例に当てはまる規則性を考えるようにしている  
 ある法則や公式がなぜ成り立つかを考えようとしている

B：国際的視野 を測るためのアンケート項目  
 さまざまな国の人と友達になりたい  
 さまざまな国の人と身近にいるのは自然だと思う  
 海外のニュースを見聞きするようにしている  
 さまざまな国の人と仕事をしてみたい  
 英語以外の外国語に興味がある  
 海外で起きたことが自分にどう影響するかを考える事が多い  
 世界のさまざまな文化を知りたい  
 外国でその国の生活様式や価値観にしたがって生活してみたい  
 英語に興味がある

C：探究心 を測るためのアンケート項目  
 何かうまくいかないとき、別な角度から考えるようにしている  
 学習を進める中で、関係しそうな様々な情報を収集している  
 難しいことでもあきらめずに考えようとしている  
 1つの問題に対して時間をかけて考えるようにしている

D：判断力 を測るためのアンケート項目  
 知りたいことを調べる方法自体を考えるようにしている  
 自分が導き出した答えが問題の主旨にあっているか考えている  
 判断をする時、たくさんの情報を集めようとしている  
 何かに取り組もうとするときにどこから始めればいいのかを考える

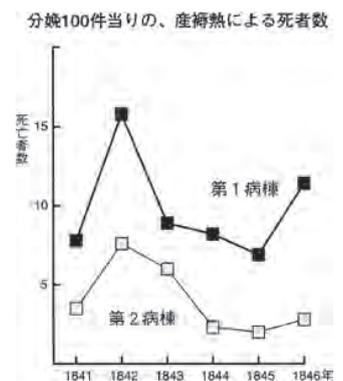
たくさんの情報の中から、自分にとって有効な情報を探している  
 何かを判断する際に、メリットとデメリットの両方を考えている  
 自分が知った情報をうのみにせず、他の情報と合わせて考えるようにしている  
 自分の判断が周りにどのような影響を与えるか考えながら決めるようにしている  
 何かを考える時に、経験や情報を活かして決めている

### 2 生徒の思考力を測る記述型課題

#### (1) 記述式テスト

「1846年7月。来週から、ウィーン総合病院の産婦人科第1病棟の『先生』になる。この病棟で死亡する産婦の比率を聞いてびっくりした。今月など、産婦208人のうち少なくとも36人が産褥熱（さんじょくねつ）で亡くなっている。お産をすることは、第1級の肺炎と同じくらい危険だ。」

上にあげたのは、イグナス・ゼンメルワイス（1818～65）の日記で、産褥熱の怖さをよく伝えていています。この伝染病のために、多くの女性が出産後に死亡しました。彼は、産褥熱による死亡者数のデータを、第1病棟と第2病棟のそれぞれについて集めました。（右の図）



ゼンメルワイス医師を含めて、医師たちは産褥熱がなぜ起こるのかまったく分かっていませんでした。日記にもこうあります。

「1846年12月。出産は何の問題もなかったのに、後になってなぜこれほど多くの女性がこの熱病で死ぬのだろう。今まで何世紀もの科学によると、産後の女性を殺し

ているのは、目に見えないある流行病だと言われてきた。その原因は、空気の変化か、何か地球外からの影響か、地球そのものの動き、つまり地震かもしれないというのだが…。」

現代では、地球外からの影響とか、地震が熱病の原因かもしれないと考える人はほとんどありません。しかしゼンメルワイス医師の時代には、多くの人がそう思っていました。科学者たちでさえ、そうだったのです！しかしゼンメルワイスは、地球外からの影響や地震などは、熱病の原因になりえないと考えていました。

①この病院では、死体を解剖（かいぼう）して死因を探ることもします。ふつう第1病棟の研修医は、前日に死亡した産婦の解剖に加わったあと、体をよく洗わずに、産後の母親を診察していました。解剖室のにおいをつけたままで、自分がどんなによく働いたか見せびらかす研修医さえいました。

②ゼンメルワイス医師の友人が解剖のさなかに誤って指を切り、やがて亡くなりました。解剖してみた結果は、産褥熱とそっくりでした。

これを知ったゼンメルワイス医師に、③新しい考えがひらめきます。

#### 問1

(1)「分娩100件当りの、産褥熱による死者数」についてのグラフと、下線部①から、どのようなことが考えられますか。あなたがゼンメルワイス医師になったとして考えて書いて下さい。

(2) 下線部②について、「友人の医師が解剖中に指を切り、やがて亡くなりました。」という事実と、「解剖してみた結果は、産褥熱とそっくりでした。」という事実から、どのようなことが考えられますか。あなたがゼンメルワイス医師になったとして考えて書いてください。

(3) (1) (2) で考えたことを合わせて考えると、下線部③の、ゼンメルワイス医師の「新しい考え」とはどのようなものだと思いますか。あなたがゼンメルワイス医師になったとして考えて書いてください。

#### 問2

(1) ゼンメルワイス医師が産褥熱に関して考えたような問題は、現在では克服されていると思いますか。下のA～Cの中から選び、記号に○をつけて下さい。

A 十分に克服されている

B 克服されてきているが新たな問題も生じている

C 全く克服されていない

どうしてそう考えましたか。具体的な事例を挙げて、説明して下さい。

(2) 〈(1) でAを選んだ場合〉

(1) に書いた事例は、どのような方策によって克服されましたか。具体的に書いて下さい。

〈(1) でB、Cを選んだ場合〉

(1) に書いた事例を克服するには、どのような方策が考えられますか。具体的に書いて下さい。

#### (2) 正答の水準

問1（数学と理科を関連づけた思考）に関する具体的評価基準

(1) 数学的リテラシー（数学に関する深い理解）の評価課題

##### 統合水準Ⅰ

「産婦の死亡率と研修医の衛生状態（解剖後にからだをよく洗うこと）の間に直接的な対応関係（共変関係）があること」に言及している。

##### 統合水準Ⅱ

統合水準Ⅰを満たす説明に加えて、「他の要因（年度による変化をもたらす要因）とは独立に、衛生状態が死亡率に影響すること」に言及している。

(2) 科学的リテラシー（理科に関する深い理解）の評価課題

##### 統合水準Ⅰ

「傷口」など、病気の原因となるものの侵入経路に言及している。

##### 統合水準Ⅱ

統合水準Ⅰを満たす説明に加えて、「何か目に見えないもの」（不可視的な媒介要因）が病気を移すことに言及している。科学的思考としては、当時の医師が持つ知識を想定し、その知識の範囲内で限定的に推理することが必要であるため、「何か目に見えないもの」といった表現や、「病原体」という表現であれば水準Ⅱとするが、「細菌」「ウイルス」といった表現（その後に発見された事実）が用いられている場合は水準Ⅱと認めない。

(3) 教科（数学と理科）を統合した深い理解に関する評価課題

##### 統合水準Ⅲ

(1) または (2) で統合水準Ⅱにあり、かつ (3) で数学的内容と理科的内容を関連づけた説明（2つの領域を関連づけた説明）を行っている。

記述例（統合水準Ⅲ）：「どの年でも（他の気候・天候等の要因にはよらず）、非衛生状態によって、目に見えないものが、傷口から侵入して病気を起こす。」（数学的説明+科学的説明）

問2（理科と社会科を関連づけた思考）に関する具体的評価基準

(1) 科学的リテラシー（理科に関する深い理解）の評価課題

〈Aを選択した場合〉 \*Aを選択した場合は、統合水準Ⅱには至らない。

**統合水準 I**

細菌やウイルスによる感染の予防メカニズム (①抗原抗体反応を利用した予防接種 (弱毒化)、②抗生剤・抗ウイルス薬の開発、③細菌やウイルスの増殖・蔓延の抑制など) に言及している。

〈BまたはCを選択した場合〉

**統合水準 I**

未解決の疾病の存在に言及している。

**統合水準 II**

統合水準 I を満たす説明に加えて、なぜ現在でも疾病が存在するかについての理由 (①治療法が未確立の新たな細菌やウイルスの発生、②細菌やウイルスの突然変異による進化 (耐性ウイルスなど)、③環境要因 (発展途上国の医療技術、生活環境等) による感染の持続など) について説明している。

(2) 教科 (理科と社会科) を統合した深い理解に関する評価課題

〈(1) でAを選択した場合〉

**統合水準 II**

(1) で統合水準 I にあり、かつ (2) で具体的な社会政策等を説明している。

〈(1) でBまたはCを選択した場合〉

**統合水準 III**

(1) で統合水準 II にあり、かつ (2) で問題を克服するための社会的方策を具体的に説明できている。

**統合水準 III+**

統合水準 III を満たす説明に加えて、さらに現代の社会的問題 (南北格差、国内の経済格差、医療倫理、過重労働など) について説明できている。

**3 教員アンケート項目**

2016.10.06

**平成28年度 SGH意識調査 (教員用)**

☆全員の先生にお尋ねします。マークシートの該当する選択肢にマークしてください。

1) 先生自身についてお聞かせ下さい。

問1 現在指導している担当教科をお答えください。

- ①国語 ②地理歴史・公民 ③数学 ④理科
- ⑤保健・体育 ⑥芸術・技・家・情報 ⑦英語

問2 教員としての経験年数をお答えください。担当教科・科目は限りません。

- ①1年未満 ②1年以上3年未満
- ③3年以上5年未満 ④5年以上10年未満
- ⑤10年以上15年未満 ⑥15年以上20年未満
- ⑦20年以上30年未満 ⑧30年以上

問3 SGHの取組へのかかわり度合いをお答えください。(複数回答可)

- ①SGH推進委員会のメンバー
- ②総合人間科 (課題探究 I・II) の主担当
- ③総合人間科 (課題探究 I・II) の実施に関与
- ④協同的探究学習を実施
- ⑤SGHの企画で国内・国外へ生徒引率 (モンゴル、ノースカロライナ、Global Discussion、など)
- ⑥その他、SGHの企画に補助的に関与 (生徒へ助言・指導など)

問4 SGHの取組において、教科・科目を越えた教員の連携を重視しましたか

- ①大変重視した ②やや重視した ③重視しなかった
- ④わからない

2) SGH校に指定されたことで、以下に示す生徒の興味、姿勢、能力が向上したと感じますか。下の①~⑤からあてはまる番号を1つ選んで下さい。

- ①大変向上した ②やや向上した
- ③効果がなかった ④もともと高かった
- ⑤わからない

問5 未知の事柄への興味 (好奇心)	①	②	③	④	⑤
問6 身の回りで起こっている社会的課題への興味	①	②	③	④	⑤
問7 世界で起こっている地球的課題への興味	①	②	③	④	⑤
問8 日本の文化や言語に対する興味	①	②	③	④	⑤
問9 海外の文化や言語に対する興味	①	②	③	④	⑤
問10 担当教科の学習に対する意欲	①	②	③	④	⑤
問11 自分から取組む姿勢 (自主性、やる気、挑戦心)	①	②	③	④	⑤
問12 周囲と協力して取組む姿勢 (協調性、リーダーシップ)	①	②	③	④	⑤
問13 粘り強く取り組む姿勢	①	②	③	④	⑤
問14 自分の考え方をを見つけようとする姿勢	①	②	③	④	⑤
問15 問題を立てる力 (問題構成力、気づく力)	①	②	③	④	⑤
問16 問題を解決する力	①	②	③	④	⑤
問17 問題を探って明らかにしたい気持ち (探究心)	①	②	③	④	⑤
問18 考える力 (洞察力、発想力、論理力)	①	②	③	④	⑤
問19 成果を発表し伝える力 (レポート作成、プレゼンテーション)	①	②	③	④	⑤
問20 海外に行こうという気持ち (留学、海外就職、海外旅行、海外派遣への応募等)	①	②	③	④	⑤

3) 以下に示すSGHの取組の効果をどのように感じますか。下の①～⑤からあてはまる番号を1つ選んで下さい。

- ①大変効果があった      ②やや効果があった  
 ③あまり効果がなかった   ④まったく効果がなかった  
 ⑤わからない

問21	外部講師による特別講義・講演会 (グローバルキャリアモデルシンポ等)	①	②	③	④	⑤
問22	大学や研究所、国際機関等の見学・体験学習・フィールドワーク	①	②	③	④	⑤
問23	総合人間科(課題研究Ⅰ) (中学で行うもの)	①	②	③	④	⑤
問24	総合人間科(課題研究Ⅱ) (高校で行うもの)	①	②	③	④	⑤
問25	本校が実施する企画への参加 (モンゴル、ノースカロライナ、Global Discussion 等)	①	②	③	④	⑤
問26	本校以外が実施する企画への参加 (企業やNPO・NGO、JICEや他の高校・大学が実施するもの)	①	②	③	④	⑤
問27	英語で表現する力を高める学習 (ALE、G30 for everyone等)	①	②	③	④	⑤
問28	文化体験への参加(着付け、礼法、能や狂言、モンゴル語講座等)	①	②	③	④	⑤
問29	校内で行う海外の生徒との交流	①	②	③	④	⑤
問30	海外の大学・研究機関等の訪問	①	②	③	④	⑤
問31	海外の生徒との協同課題研究	①	②	③	④	⑤
問32	海外からの長期短期留学生のホームステイ受け入れ	①	②	③	④	⑤
問33	国際学会や国際シンポジウムの見学	①	②	③	④	⑤

4) 問34 SGHに指定されたことで、学校のグローバル化に関する先進的な取組が充実したと思いますか。下の①～⑤からあてはまる番号を1つ選んで下さい。

- ①大変充実した      ②やや充実した  
 ③充実しなかった   ④もともと充実していた  
 ⑤わからない

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

5) SGHの取組を行うことは、以下のそれぞれの項目において影響を与えますか。下の①～⑤からあてはまる番号を1つ選んで下さい。

- ①そう思う      ②どちらかと言えばそう思う  
 ③どちらかと言えばそう思わない  
 ④そう思わない      ⑤わからない

問35	新しいカリキュラムや教育方法を 開発する上で役立つ	①	②	③	④	⑤
問36	教員の指導力の向上に役立つ	①	②	③	④	⑤
問37	教員間の協力関係の構築や、新しい取組の実施など、学校運営の改善・強化に役立つ	①	②	③	④	⑤
問38	学校外の機関との連携関係を築き、連携による教育活動を進める上で有効だ	①	②	③	④	⑤
問39	地域の人々に学校の教育方針や取組を理解してもらう上で、よい影響を与える	①	②	③	④	⑤
問40	将来のグローバルリーダーの育成に役立つ	①	②	③	④	⑤
問41	学習環境の整備に役立つ(パソコンの充実、図書の実、Wi-fiの設置等)	①	②	③	④	⑤

アンケートは以上です。有り難うございました。